京橋の印刷

12月15日 1989・No.75

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F　電話 552-1855

発行人
大竹次郎

ごあいさつ

大竹　次郎

平成元年も師走を控え組合員各位にはご多忙のことと存じます。

昭和が終り平成に元号が変り、あっというまの1年でした。昨今の世の移り変りは予測の出来ない事柄が多くその対応に戸惑いを感じます。業界においても若年就業労働人口の不足や、消費税の実施の対応など課題の多い年でした。

京青会10周年記念の事業に就きましては、組合員各位のご理解とご協力により242社の各社より計二、三七五、〇二四円の醵出金を戴き、又関連各業界の各位にも協賛のお願いをいたし、11月11日の東京会館のパーティー開催をもって無事終了いたしました。この事業につきましては賛否両論のご意見を戴きましたが、業界の次代の展望を考えた時、若い人々に育って貰いたいと願うのは現職の執行部だけの願いでしょうか。我々の任期も来年3月をもちまして満了退任させていただき、次の役員の皆さんにお願いいたすことになります。

組合員各位におかれましては年末を控えご健勝をお祈りいたします。

京橋支部永年勤続従業員表彰式

9月21日㈭、午後6時、中央会館7階にて、支部永年勤続従業員表彰式が開催された。

長田副支部長の開会の辞に続き、大竹支部長が登壇して次のように挨拶した。

「この表彰式は5年、10年、15年の勤続者に対して、2年に1度行っている。20年以上の勤続者表彰は来月7日東印工組で、催す事になっている。さらに中央区・中央区工業団体連合会による表彰も毎年行われている。

今日の印刷は活字からCTSへの移行にみられるように、15年前とは全く様変りしている。その中で、〝ソフトとハード〟という事が度々言われるが、印刷は情報によるソフト産業であり、営業マンにも更に深い勉強が要求されている。中小企業にとって、印刷ほど根強い産業は無いといえるが、造注産業という言葉が持て囃される昨今、もはや単なる御用聞きでは成り立って行けない。ユーザーの要求するものをどう摑み、納めるかが課題であり、〝過去に拘る者は未来を失う〟という言葉に示されるとおり、自分達の手で創り上げなくてはならない。

印刷は幅広い業界であり、中小企業にとってはメリットのある業界だと思う。そして京橋は、日本の印刷の発祥の地である。京橋が印刷業界の最先端を行くので、誇りを持って欲しい」。と激励しました。次いで表彰式に移り、まず、5年勤続者63名を代表して、東京眞宏印刷㈱の小林和子さんへ、10年勤続者60名を代表して、オカムラ印刷㈱、鈴木義道氏へ、また15年勤続者38名を代表して、㈱榎本印刷所、工藤貴志己氏へそれぞれ、大竹支部長より賞状と記念品が手渡されてその労がねぎらわれました。

来賓を代表して挨拶に立った中央区工団連の

児玉会長は「他所の職業というのは、とかく良く見え勝ちなもので、転職したいと考える事もあるでしょうが、やはり、一か所に長く勤めれば、それに勝る誇りを持つ事ができる。今後共、頑張って欲しい。」と祝いの言葉を述べた。

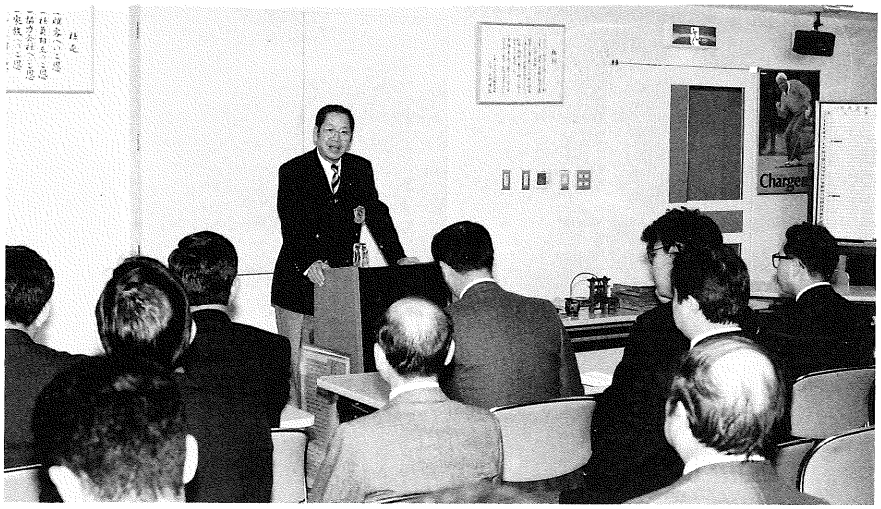
続いて受賞者を代表して、高千穂印刷㈱、中井鳥義氏が「私達は文化の一端を担う印刷界に志した事を誇りと致しております。本日、身に余る表彰を享け感激致しております。今後共、一層の努力を致し、今日の栄誉にお応えする覚悟でございます。」と謝辞を述べました。

続いて祝宴に移り、石澤幸支部顧問がお祝いを述べて励げましの言葉を贈ると共に、乾杯の音頭をとり、一同乾杯をし、沢山の御馳走に舌鼓を打ちながら一刻歓笑のうちに過ごした。歓談の合間には、中央区の茂木商工課長が区長に代り、挨拶をし、中央区としても今後、印刷業の振興、定着のために力を入れてゆく方針であると述べて、激励しました。この日は受賞者161名の内90名程が出席して、女性の方も目立って華やかな祝宴となり、支部からも役員の他、顧問・相談役・参与の方々も多数出席して、祝いました。

尚、当日は、同時刻に印刷月間記念式典がパレスホテルで行われていたため本部役員のご来場はありませんでした。

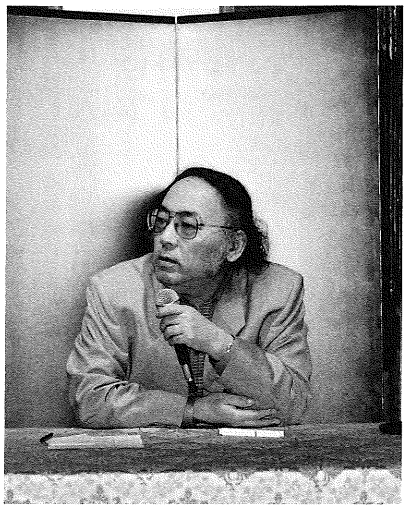
（岩本）

東印工組京橋支部印刷人青年会
京青会10周年記念事業開催



11月6日(月)から京青会10周年記念週間が始まり、この間午後1時から5時迄、ミズノプリテック㈱6階にある、ミズノプリンティング、ミュージアム（印刷博物館）が一般公開されました。

初日は連休明けで忙しいせいか、訪れる人は数えるほどでしたが、2日目からは、あちこちの支部員の社員や関連業界の方も含め、可成りの方々が見学に訪れて、数多くの貴重な印刷コレクションを拝見していました。最終日の10日には午後6時から水野雅生社長の「印刷文化の流れ」と題した特別記念講演も開かれ、支部員や社員、京青会員等80名が聴講しました。



メインイベントは11日、東京会館11階で、4時より、竹村健一氏を講師に、「新しい日本」という題名で講演会が1時間10分に亘って、独特の話術で行なわれ、内容は、現在の好景気の継続による人手不足の深刻化、地価高騰の肯定、日本経済摩擦の深刻化によるナショナリズムの抬頭の危険性等々有意義なものでした。

その後20分に亘って質疑応答が行われ、自分は英文学科卒なので、経済の面は専門家ではないとしながら、政治関係の話が主でした。

6時からは、記念レセプションが開かれ、支部員、京青会員、関連業界の人々等、235名が出席して行われました。

女性司会者の紹介で、まず松岡京青会会長が登壇してこれまでの経緯を説明し、今後共、よろしくお願いします。と挨拶、次いで来賓の東印工組の新村理事長が、「10周年おめでとう、かねてから京青会については話をうかがっていたが、すごい力を持っている素晴しい会だと感心した。とくに若く活力があることはいいことで、この活力を生かして、今後共業界に大いに活躍してほしい。このような一流の場所で、一流の講師による講演や、豪華で、多数の方々が集まるような事業は東印工組では、とても出来ません」と祝辞を述べて謙遜されました。

乾杯の音頭は10周年記念事業の委員長である、小宮山副理事長が、「今日、この1周年の委員長を務める立場として、一言お礼の言葉を述べたい。私はちょうど10年前支部長を務め、京青会の発足にいささか尽力した。今日この意義を

かみしめて、あとにつなげてほしい。支部員各位の御協力と関連業界の方々の協賛で、このように立派な会が出来まして感謝致しております。今後共、事業の後継者達を育てる意味で、よろしくお願いします」、と挨拶し、一同、杯を上げて会の発展を祝いました。

歓談のうち7時頃からステージショウが催され、九重祐三子、田辺靖雄のおしどりコンビによる、息の合った歌と踊りで、ジャズや数々のヒットメロディーが演じられて、さながら〝サタデイ・ナイトフィバー〟という感じで、手拍子が絶えずに京青会の10周年にふさわしい演出となりました。

宴たけなわのうちに時も過ぎ京青会会員が壇上に並び、大竹支部長が代表して、支部員、関連業界の皆様に御礼の挨拶を申しのべ、「今後共、よろしく御指導をお願い申し上げます」、と締め括って盛会のうちに、京青会10周年記念誌を手に帰路へつきました。

（写真撮影・日本印刷新聞社、田中宏和氏）

築地界隈今昔物語

景勝の地、築地

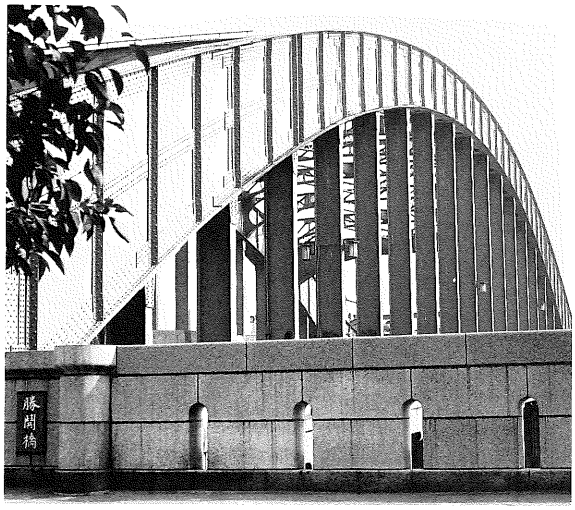
「築地」という地名の由来は定かでないが築地本願寺が当初京都西本願寺の出張所として横山町に創建され、明暦の大火（一六五七）後に築地に移り、俗に築地本願寺といわれるようになったとある。したがってその頃すでに築地という地名があった訳である。

「江戸名所図会」に「俗に築地の門跡とよべり、ある人云う、その地は明暦同年に仰せの事ありて築く所なり」とあるから間違いなかろう。また築地周辺は明暦の大火後に埋め立てられたとあるから、歴史そのものはおよそ三百二十年前後と思われる。

しかし江戸時代には、松平安芸守、徳川御三家のうち、一橋家、尾張家、稲葉長門守といった由緒ある大名の下屋敷があったところである。はじめは稲葉長門守の下屋敷が過半数を占めていたが、延享三年（一七四六）南半分を一橋家に分与、寛政四年（一七九二）一橋家は南西部を松平越中守定信に賜った。松平定信は、天明七年（一七八七）から寛政五年（一七九三）まで老中筆頭をつとめ、名宰相といわれた人である。文化九年（一八一二）隠居して楽翁と名乗った。楽翁は造園に親しみ、稲葉邸二万坪（現在の築地市場南西部の地域）を改造して、浴恩園という一代名庭園をつくった。浴恩園は稲葉邸の江風山月楼の一部を改造したもので、「江戸名勝図会」によれば、海に臨んだ風景は、中国一の佳景といわれる洞庭湖の秋影にもまさるとある。隣りには徳川の浜御殿（今の浜離宮公園）があり、附近一帯はさぞ景勝の地であっただろうと想像される。

築地を囲む橋

一橋家、松平越中守、松平安芸守の屋敷に通じる橋が安芸橋、今の海幸橋で、東詰に波除（なみよけ）神社がある。万治年間（一六五八～六〇）の埋立て工事の際、荒波のため工事が思うように進まない時、波間に流れてきたご神体を祠ったところ、それからは波も静まって工事がはかどった。そのため築地一帯の氏神、波除神社になったという。



広島、名古屋、桑名、淀、長島の五藩と一橋の屋敷を合わせたのが今の築地五丁目で、長島藩増山河内守屋敷跡は、国立がんセンター（旧海軍病院）と海上保安庁水路部（旧海軍水路部）の一画（朝日新聞社等）になっている。

江戸時代は、築地をとりまいている川は築地川とはいわなかった。潮の干満で動きはあるが、川の流れはなかったからだと思う。明治五年の「東京府史料」には築地渠としてある。今は築地渠の大部分は埋め立てられて高速道路になっている。

数百人の外人居留地帯

浜離宮公園へ渡る橋が南門橋、それから北へ向かって尾張橋、国立がんセンターと水路部の北西詰めにあるのが千代橋、銀座東急ホテルとすえひろの間にかかっているのが采女橋で、戸田采女正の屋敷があったところから名がついたという。その北、晴海通りの橋が万年橋、中央区役所前の三吉橋は、もと相引橋で、名の由来は、満潮の時に明石橋からあがってきた潮と尾張橋の方からのぼってきた潮とがぶつかり合って、引き合うようなかたちに見えるところから合引橋→相引橋といわれるようになったという。晴海通りを築地四丁目から同六丁目へ渡る橋が門跡橋で北へ備前橋、境橋と続く。備前橋は松平内蔵頭が備前藩主だったのでそこからとった名である。境橋は江戸時代数馬橋といって、これを渡った北側は、播州赤穂藩浅野内匠頭の屋敷があったところ。聖路加国際病院のあるところだ。境の東、明石町をつなぐ明石橋はむかし寒橋といった。俳人宝井其角の句に「寒橋、青海や浅黄になりて秋のくれ」というのがある。このあたり一帯明石町から旧小田原町一帯は明治のはじめ外人の居留地となっていた。明治十九年この居留地に住んでいた外人の記録があるがそれによると、アメリカ百四十四人、イギリス百十九人、ドイツ七千一人、清国三十八人、フランス三十五人、ロシア六人、ポルトガル五人、オランダ四人、等となっている。

団十郎と魚河岸

『新撰東京名所図会』に「東は万年橋に起り、大路を隔てて、南は松平和泉守の上屋敷なれば、裏手ながら練塀は高く築かれたり。中略、万年橋の袂までで、小屋掛、莚張の小芝居、浄瑠璃、講釈師、水茶屋、楊弓店、釣船宿、栄蝶の壺焼、稲荷鮨、豆蔵など軒を並べて、行人の足をとどめたる。又深夜、人静かなるに及べばも

の陰より莚抱えて、情売らんと、淋しく笑める辻君、或は夜鷹というなる。彼の淫女の巣窟にて退けるなり』とある。

常設小屋がこの地にできたのは寛永十九年（一六四二）の山村座、万治三年（一六六〇）森田座、その後に河原崎座が、そして中橋にあった桐座が移っている。一時は狂言座、舞座、浄瑠璃座、芝居など二十軒を数えたという。

芝居といえば、市川団十郎の十八番の一つ「助六」は、魚河岸の承認がなければ舞台にかけられなかった。それは「助六」は浄瑠璃芝居であるが、出の部分に河東節が使われていたからである。この河東節は魚河岸出身の河辺藤右衛門が河東節をうたうようになったからだという。役者はひいき節を大切にしなければやっていけないので、魚河岸の旦那の顔を立てるためそうしたもので、その慣例は今でも生きている。

帝国海軍も築地から

日本帝国海軍といってわからない人が増えてきているが、昭和二十年八月十五日、帝国海軍はここに七十七年間の歴史的幕を閉じたのである。その発祥の地が築地であることも次第に忘れられつつあるが、日本の歴史上大事な事柄なので述べてみるとこうだ。

徳川幕府は幕末に海軍の必要を感じ、築地に海軍操練所を設置した。明治新政府は慶応四年（一八六八）八月二十五日、この操練所を接収。同年九月八日元号を明治と改元、同十一月二日築地に海軍局を置いた。明治二年九月十八日、明治政府は海軍操練所を築地に設立したが、これが海軍兵学校の起源となっている。同五年海軍省が築地に移転、海軍大学、技術研究所などが入り、海軍病院、水路部、海軍経理学校などが設立され、日本海軍発展の基礎を創った。現在築地市場の北東に「魚河岸水神社」の遙拝所があるが、その入口に、時の海軍大臣永野修身が撰文した「旗出の碑」があり「…此地ヤ実ニ海軍経営ノ根基ヲ為セリ蓋シ其発祥の地ト謂フヘシ…」と書いてあるのが唯一の名残りである。また、勝どき橋西詰にあった海軍経理学校の出身者は同窓会を浴恩会と名付けた。

世界最大の市場
築地市場の辿った道

大正十二年九月一日の関東大震災によって日本橋魚河岸は移転を余儀なくされ、一時芝浦に移転したあと、この地築地に移転、大正十二年十二月二日から営業を始めた。そして昭和十年中央卸売市場の開設と共に現在の姿になった訳であるが、先人の苦しみ陣痛の極みであった。二度にわたる魚商の不買事件、仲買制度の廃止等、太平洋戦争による経済統制、そして終戦。それが今や世界的魚市場として君臨し、世界各国漁業家の注目を集めるようになった。そして十年後には、市場の再整備によって青果市場が二階に移り一体型の市場に生まれ変わろうとしている。

築地市場と共に相関関係にあるのが場外市場である。築地本願寺の子院の数五十七―八ともいわれているが、三十数ヵ寺あった墓所の上に店舗ができたのが場外市場「共和会」である。昔のいわれに墓所の跡地に建った商売は繁盛するといわれるが、この場外市場はまさにその典型というべきだろう。

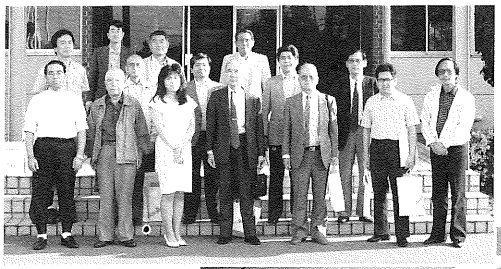
（近藤正弥・日刊食料新聞社社長）

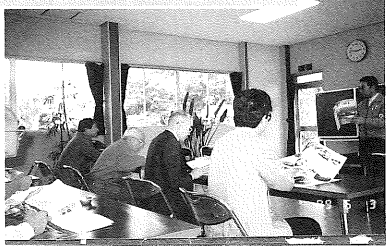
地区だより

月島地区研修旅行会

平成元年6月3日～4日
事務用印刷一泊研修会
福島県いわき市勿来町十条一番地　十条製紙株式会社勿来工場

6月3日午前9時地区組合員ならびに組合員企業役員11名の参加で、中央区佃三丁目に集合し、中型バスにて出発、首都高速から常磐自動車道を水戸I・Cより国道51号を経て、予定時刻を30分近く遅れ11時25分大洗ビーチパレス着、





昼食・休憩後12時15分出発、国道245号～6号線を那珂湊市・勝田市・日立市・北茨城市へとバス・ドライバーは大洗よりいわき市までは1時間ほどとのことであったが、この行程も大幅に遅れ2時40分十条製紙勿来工場に到着。事務所玄関に南屋厚敞工場次長はじめ四名の方がたと、東京から中央区明石町の大永紙通商株式会社・永村博司主事、同じく入船町の朝西紙商事株式会社・近藤康次取締役営業副部長の出迎えをうけた。

早速、事務所会議室で南屋次長から、東京の印刷業の方がこのように多勢でお見えになったのは、当工場の創業20周年になるが初めてのことであり歓迎いたします。と挨拶がありました。

つづいて、会社案内のリーフレットにもとづき、工場の概要として、この工場は、昭和44年11月設立され20周年をむかえている。製品は事務・帳票用ノーカーボン紙PPCの生産を専門におこない、その後感熱紙・静電記録紙も生産し、十条製紙の情報産業用紙の主力工場として、国内の需要はもとより広く海外に輸出されている。規模については、工場および付帯設備の土地は80万平方メートル（後楽園ドームが30ちかく入る）について説明があり、つづいて工場見学の注意事項があり、特にカメラ撮影はフラッシュによる光が、工場内では、ほとんどの機械は電子機器により制御されているので影響があるので禁止される。危険防止用ヘルメットを着用し3時10分より4時20分までの工場見学をおこなった。

・主要機械設備・この工場では製紙の一環生産であるパルプは福島県の十条製紙石巻工場からの直送とカナダからの輸入で賄われている。抄紙および加工工程の工場で、抄紙機は幅三、八メートルの長網多筒式のスチームローラーが高速回転で液状の原料が脱水、圧縮、乾燥され見上げるような太さでリールに巻上げられる有様は圧巻で、その間に製品の均一度、湿度などがコンピュータ制御で管理されている。こうした半製品は、10トン・クレーンで吊り上げ移動、次工程の複写用薬剤が塗付され乾燥、カッターによる枚葉紙に裁断、選別、包装、またはスリッターにより巻取紙仕上げ寸法に切断、包装される。

この2工程の抄紙機1台、コーター5台のすべては、中央区に関係の深いIHI（石川島播磨重工）製であった。こうして出来た製品は倉庫におくられ梱包、発送されていくシステムで、すべて販売店からのオーダーによる受注生産管理がなされ、製品は発送仕訳け整理で在庫一日だけ積み出される。生産高の六五％は国内出荷で、三五％は米国、カナダをはじめ欧州、南米、豪州、東南アジア、アフリカなどの海外に出荷されている。

・従業員・このような大工場の従業員数が、男子450名、女子80名の計530名が労働に従事している。

・労働時間・完全週休2日制で8時間労働、3直4交替で祝祭日も工場は操業している。

その他、環境保全施設は整えられ、厚生施設

も社宅18戸や四階建アパート224戸（10棟）、独身寮、食堂、浴場、体育館、野球場、テニスコート、サッカー場、児童遊園地、厚生会館、診療所などの施設がある。

広大な工場見学をおえて、会議室にもどり質疑応答がおこなわれ、特に、用紙の湿度管理について印刷適正湿度はどの程度か、工場出荷時の湿度が流通段階での、その変化と管理はどの様になされているか、印刷工場でどの様な対応をしたらよいのか、適正湿度は何度なのか、などと、さらに印刷工場での用紙に対するクレームについては、メーカーからの応答がない。など活発な意見がだされた。メーカーの対応は、後日に委ねられた。

4時45分製紙会社ならびに東京の紙代理店、販売店からの記念土産品を頂き、製紙工場をあとにした。

一行のバスは、いわき市から戻る道のりで、隣の北茨城市大津町の五浦観光ホテルへ向う、途中、勿来の関の史跡に立ちより往時を偲ぶ。5時10分ホテル到着。入浴後、6時より事務用印刷研修の感想・懇親会を開催。

以上、研修を終了し一泊し帰途につく。

（石曽根）

築地地区旅行記

9月半端とは云えいまだ残暑厳しいが、朝晩は秋らしい風が頬を打つ気候となった。

晴天を望みつつも気象変化の激しさを予期させるかの様に薄曇りの9月15日―朝8時半、例によって熊谷印刷㈱社屋前に我等同志、築地地区の組合員の笑顔が集合した。

昨年の懇親旅行の直後より幹事の諸氏が協議を重ね秋の旅行会としては若干早目であるがこの日を選定し、早くから企画を練った。秋の紅葉シーズンとしての10月11月の日程では、組合員各位が何かと予定も多く、己むを得ず不参加となる事を恐れ、早目の9月と決めたが、意外に都合の悪い人が続出し、参加者は14名となり幹事諸氏を失望させた。

しかし、気分を取直し観光バスにゆったりと席を取り、集合した面々は皆元気で予定通り築地の街を後にした。目指すは東北地方の人口、福島県東山温泉である。

午前9時30分、車は首都高速道路を順調に滑りぬけ、東北高速道浦和入口に達した。

愛くるしいガイド嬢の案内を聞き乍ら、早くも車内ではビールで喉を潤す。運転手氏は無線を交信しながら、我々の行手の交通状況や天候の様子等、生々しい情報を得ながら車を進めて行く。

午前10時羽生サービスエリアで小休止、この頃から道路は大変混み合ってきた。

秋の行楽シーズンに若干早い時期ではあるが、連休のためか誠に車の多いことには驚かされる。正午まで郡山市へ入るのは到底無理な様子、距離にしてあと、170キロの道程である。まあ、車の進行状況は運転手氏にお任せして車内では有志がカラオケに自慢の歌声を響かせて大いに旅行気分は盛り上った。

午後1時30分、郡山市内で昼食、千人以上は収容出来るかと思われる大きなドライブインで、

全員待ちにまった特製弁当で舌づつみをうつ。

2時半、満腹を抱えて出発、国道49号線に沿ってのどかな田園風景を眺めながら30分程で猪苗代湖に到着、この道は越後街道とも云うそうだ。野口英世博士の生家のある野口記念館を一瞥して更に車を進める。

会津若松市に入って白虎隊で有名な飯盛山の麓を車はゆっくりと迂回して東山町の会津武家屋敷に到着。ここからは目的地の東山温泉街はすぐ目の前である。

今にも武士の息吹きが聞えてきそうな武家屋敷のたたずまい、一同車を降りて見学することとなる。

入口で赤い陣羽織のようなちゃんちゃんこを入って来る人、一人一人に渡している案内人風の人がいた、我等が一行は全員物珍しさでそれを身につけた。このまま見学するのも一興かと思っていると、道順に少し歩を進めれば、なんとそれは記念撮影のための小道具であった。写真屋さんに云われるままに席について全員胸を張ってカメラに向う。

折角だからとて、写真代を支払い記念写真は後日郵送との事。例の赤いちょっきは自然に剝ぎとられ、いよいよ屋敷の見学である。

会津藩の武家家屋敷は、戊辰戦争によって殆んどが武具、家財と共に焼失してしまったと云う。この屋敷には、二年余の歳月をかけて追手門前にあった家老西郷頼母邸を復元したものを中心とし、武家文化にかかわる建物等が建ち並ぶ。背景に、松平家の御廟（墓地）をひかえ、指呼の間に、鶴ケ城を眺望できる景勝の地にあった。

見学を終えて午後5時宿泊先の会津東山閣に到着。速早一日の汗を流すべく思い思いに湯舟につかる。目の前に迫る山の濃い緑の波が目にしみる。やっと着いたとの想いで、ゆっくり湯に身体を沈めるこの気分は何とも云えぬ安らかな心地良さに満ちてくる。

身も心も洗い流して、6時より宴会場に全員集合となる。

地区長が先づ初めに挨拶、先日の地区長会での組合連絡を格調高くまじめに行う。

6時半、予定通りコンパニオンのお色け軍団が賑やかに入場、長老の音頭で乾杯と共に宴会がスタート。

参加者が例年より少ないため、今回は少々淋しい宴になるかと心配されていたが、意外に良く盛り上った。ここぞとばかり美声をカラオケのメロディーにのせて御披露する人が続出、はたまた中央に踊り出てダンスに興ずる人と今迄にない大盛況となって幹事諸氏も、大満足の笑顔で頷き合う。

屋外では大雨が降り、冷い風が窓から吹き込んできて、酔いの廻った火照る首すじに、ここちよく撫でて行く。宴の予定時間を大幅に延長して楽しい酒宴が続いた。

一夜あけて昨夜来の雨はすっかり上って、朝9時、全員元気良く出発する。

会津若松市内の中心に聳える鶴ケ城を見学の後会津の名所旧跡を巡ってバスは裏磐梯を抜けるゴールドラインを走る。

午前11時半、湖面の美しい桧原湖へ到着、昼食をとりしばし、休憩。

午後の旅程は約40キロに渡って福島市内までの夢のドライブコースである。初めて、猪苗代湖、桧原湖、秋元湖の三つの湖を眺めながらのレークラインを経て、磐梯スカイラインを入って行く。秋の紅葉には早やすぎて残念乍らお目にかかれないが、この道程は、絶景に目をみはり、誠に素晴らしいバス旅行の醍醐味を味わせていただいた。

山峡に浮かぶ三つの湖が緑の山脈に浮かんでは消え、現れては又隠れる、近くの風景と云えば深い緑の森林を潜る様に行くかと思えば、突然真青な大空が眼前に拡がる。実に自然界は雄大である。山の幸を含んだ山林の何とも云えぬ空気、谷の合間をくぐり抜けて走る清流の輝き、大自然の偉容な力を感じさせる硫黄の香りをのせた風と、次々と目の前にくりひろげられる雄渾なる風景の連続に全く呑み込まれて心躍動する一刻であった。

（春原記）

湊地区懇親旅行記

今年の湊地区の懇親旅行は往復空路を利用しての山陰路の旅でした。

10月21日(土)午前7時35分全日空171便ボーイング737は湊地区参加者25名を含め126名満員の乗客を乗せ紺碧の空に向って羽田空港を飛び立った。

午前8時55分定刻に米子空港着、既に配車されていた日本交通のバスに移乗大名旅行の始まりである。

先ず最初は島根半島の最東端、関の五本松で知られる美保関から神話の恵びす様夫婦がご神体の美保神社を参拝し国道431号線を進んで松江城に向う。松江は島根県の県庁所在地で小京都とも云われ国際観光都市で、宍道湖に面して

出雲大社参拝記念

「水の都」として情緒豊かな城下町でシンボルは松江城である。松江城は慶長16年出雲の領主堀尾茂助吉晴が5年の歳月をかけて完成した。堀尾氏3代、京極氏1代の後、徳川家康の孫にあたる松平出羽守直政が城主となり、10代234年間出雲18万6千石を領した。天主閣まで登ることができ、1階ごとに当時使用した武具や絵画などが陳列されており往時を偲ぶことができる。天主閣はそれ程広くなく、籠城の際使用するための井戸と塩の貯蔵庫跡があり、戦国の武将の築城に対する配慮がうかがえる。多少厚着をしてきたせいか汗ばんできて上着を脱ぐ程の陽気である。松江城見学を終え、日本籍に帰化した小泉八雲の記念館に立寄り見学する。小泉八雲は本名をラフカディオ・ハーンと云い、嘉永3年ギリシャのレフカス島で生れた。重なる不幸にもめげず19歳で渡米し24歳で新聞記者となり、文学の翻訳、創作発表でみとめられ、明治23年40歳のとき日本へ取材のため来て間もなく、島根県尋常中学校及び尋常師範学校の英語教師となった。松江の風物、人情が大変気に入り怪談「耳なし芳一」他多くの著書がある。又、お手伝いとして使っていた武士の娘小泉セツと結婚し帰化したのである。記念館には遺品、著書、関係資料など一、〇〇〇点程が展示されていたが1年3カ月しか松江に住んでいなかった八雲の偉大さに今さらながら驚いた。小泉八雲記念館を見学して昼食にする。昼食は松江藩七代の領主である不昧公、松平治郷が好まれたという「汁かけご飯」鯛めしに舌鼓をうつ。昼食後宍道湖の美しい景色を見ながら東洋一の灯台である日御碕灯台に行きしばらく散策したあと車を出雲大社へ進ませる。出雲大社は皆様もご存知の通り大国主命を祀り日本最古の大社造りの神社で縁結びの神様として有名。本殿にかけられている〆縄は3屯半あり6年ごとにかけかえられるそうである。出雲大社参拝後バスは松江、米子と戻り宿泊場所の皆生温泉ホテルつるやに向い午後5時40分ホテルに到着、旅装を解く。しばし、いで湯に身を沈め旅塵を落したあと大宴会の始まりである。ヤヤヤヤ…美妓と思うは目の錯覚？昔も今もあまりきれいどころとはお世辞にもいえない芸者衆のお出ましだ。挨拶は簡単に切り上げて懇親会になる。顔、容姿の悪さは愛嬌でサービス、芸者衆やクラブのホステスのお酌で酒量も上り、楽しい親睦の宴に時がたつのも忘れる。午後9時宴会を終え各自の部屋に別れる。二次会を幹事部屋で賑やかに開始、芸者のアタックをかわすのに一苦労？2時間程でお開きにする。その後筆者は寝てしまったので、同室の誰が何をしたかについては知るよしもない。

翌22日も絶好の秋日和、午前9時ホテルの従業員に見送られ2日目の旅程に車を進める。庭園と横山大観コレクションで知られる足立美術館を見学する。この美術館は、安来市出身の実業家足立全康氏が大阪で事業を行うかたわら収集したコレクションをもとに、昭和45年設立されたもので、現在は近代日本画を中心に約一、三〇〇点の作品を公開している。美術品もさる

ことながら、その庭園の素晴しさに目を楽しむことができた。美術館をあとに天台宗大山寺を参拝昼食し、大黒様と白兎の神話で有名な白兎海岸を通過し最後の見物場所である鳥取砂丘に行った。千代川の東側16kmにおよぶ砂丘は、その風紋の美しさで有名だが、見ることができなかった。起伏に富んでその高低差は90mもあるので、起伏を利用してハンググライダーやパラグライダーを楽しんでいるサークルがあった。ここの砂丘会館で夕食をとり鳥取空港へ、鳥取空港午後6時55分発全日空300便のボーイング737に搭乗、午後8時無事羽田空港に全員無事到着解散した。

（中山記）

支部の動き

9月5日㈫中央区商工課と大竹支部長懇談、
於：支部室、印刷業の実態を説明、
9月6日㈬本部支部長会、於：印刷会館
9月12日㈫本部「敬老の集い」、於：明治神宮
9月13日㈬部長・監査・地区長会、於：支部室
1、支部長会本部事業について、
・組合情報ネットワーク構想について、
・「東京の印刷」次年度表紙について、
・「経営計画立案研修」開催について、
・「ひざつき合せての相談研修」
・組合百年史、支部沿革史執筆9／30迄、
2、報告事項
・「人材情報センター」アンケート
回答率19％、530社、72％人手不足、
・百年記念事業準備委員について、
・「敬老のつどい」「永年勤続表彰」
・各種表彰について、全印工連組合功労者
・第13回有機溶剤作業主任者技能講習会、
3、当面する支部事業について
・支部永年勤続従業員表彰式、9／21、中央会館、受賞者161名、
・京青会10周年記念式典、11／11、東京会館
・今期後半の予定、11／28、顧問・相談役・参与の会、12／1幹事会、銀座キャピタルホテル、
新年臨時総会、1／26㈮、中央会館
4、中央労働基準監督署、神林監督官の労基法改正の説明、時短、パートの問題等、
9月14日㈭京青会10周年事業実行委員会、
於：支部室、斎藤・石沢顧問他出席、
9月21日㈭支部永年勤続従業員表彰式、於：中央会館、受賞者161名、本文参照
9月27日㈬中央区工業文化展計画会議、於：中央区役所、大竹支部長出席
9月29日㈮東商中小企業振興委員会、於：中央会館、大竹支部長出席
10月5日㈭本部支部長会、於：印刷会館5階
1、本部事業推進について、
・「コミュニケーションポストカード」について、
・消費税と本部・支部会計について、
本部会計・簡易課税選択
・支部総代選出アンケートについて、
・理事定数の増員について、
印刷関連団体の理事数を参考、
・「人材情報センター」開設について
組合員への周知・啓蒙方法、東京の印刷誌10／15号参照、

秋の叙勲に思う

日刊食料新聞コラム欄より

▼文徳をもっての人間感化、―これを「文化」という。したがって「知識人」と「文化人」は同じでない。自らの豊かな知識を、自分だけの"孤"に止どめず、広くその応用を"衆"に及ぼしてこそ、はじめて文化人なのである。影響力と牽制力との併有、武断政治に対する文民政治の派生などは、文徳をもっての感化の重要性を説いたその具体的"立証"にほかならない▼さて、その文化の日、恒例の文化勲章、叙勲、国家褒章などが発表された。いずれも自らの知識をあまねく衆に及ぼした偉い人達ばかりである。著作だとか新聞だとかでしか知る機会がない雲の上の人達に混って、日頃、おつき合いを願っている業界の先達諸氏の名前もあっち、こっちに…。ホホウ、あのかたが叙勲、このかたは褒章かと、こっちは心の中でささやかな祝意を表す▼お天気にほだされて裏山から近くのお寺あたりへと出かけた。赤、紅、褐色、黄、青、紫など、まさに「錦繡」である。しかも、主役は名も知らぬ雑木と雑草達である。▼新緑から紅葉まで、一年中山の活性化に励む雑木達への天からの勲章、―いまの時期の山の美しさはきっとそうに違いない。

（妙竹輪）

2、報告事項、
・「組合情報ネットワーク化事業」の支部担当者推せんについて、
・組合百年史、支部沿革史18支部提出済
・「永年勤続従業員表彰」について383名
・「経営計画立案研修」について、
・「ひざつき合せての相談研修」について
・生産士指導講習について
10月6日(金)小宮山印刷㈱埼玉工場落成式、
10月23日(月)京橋電気安全協会、於、京橋消防署
10月24日(月)中央区町づくり協議会、中央区役所
10月26日(木)新川地区町づくり協議会新川区民館
11月7日(火)顧問・相談役・参与の会、於：支部室、京青会10周年事業実施について
11月9日(木)部長・監査・地区長会、於：支部室
1、本部事業推進について協議事項、
・平成2年東印工組新春のつどい開催、1月12日(金)、ホテル、ニューオータニ、
・印刷組合百年記念表彰規程について、
・百年史への組合員協賛広告、11／末締、
・支部総代選出方法について、モデル規約
・理事定数の増員について
40名に1名を35名に1名の比率にする。
・各種共済制度の加入増強運動について
自動車事故総合保証プラン共済、火災共済受託物共済、ライフピア（全国生命共済）
2、報告事項、
・プリンティンフェスタ'89「歩行競争」
・「人材情報センター」の申込みについて
・「総合賃金調査」の回収について
・生活安定セミナー「やる気を出させる人事管理について」
・印刷営業士補足講習について、
3、各支部提案・報告事項、
・支部配付物について
・京青会10周年事業について、
4、当面する支部事業について、
・支部新年臨時総会開催について、1月26日(金)、18時、中央会館、
・次期役員選考委員の選任について、
・京青会10周年記念式典、11／11、
・支部幹事会、12／1、銀座キャピタル、
11月11日(土)京青会10周年記念式典、於：東京会館、参加人員約250名、本文参照
11月28日(火)顧問・相談役・参与の会、於：躍金楼、会費1万2千円
12月1日(金)支部幹事会、於：銀座キャピタル、
12月6日(水)本部支部長会、於：印刷会館五階

所在地移転

・㈾協進社印刷所（入船地区）は銀座8―16―10、中銀タワービルに移転しました。
・㈲文星堂（八丁堀）は八丁堀2―9―1の元の所へ戻りました。
・㈱小薬印刷所は本社屋建築のため、12月4日より江東区北砂6―27、電話648―9151、FAX648―9155に移転します。〒136
・石澤印刷㈱は本社屋建築のため12月11日より江東区三好2―6―7、電話642―0395、FAX642―0595へ移転します。〒135

支部員の異動

脱退組合員
・㈱コジマ（銀座地区）小嶋勝殿

お悔み申し上げます

・新川地区、㈱谷島社長御母堂、谷島ヨシ殿が御逝去されました。（9月）
・築地地区、㈲すのはら印刷所社長、春原新松殿が御逝去されました。（9月）

編集後記

今月号は築地・月島地区の担当となりましたので、表紙は両地区にまたがる勝どき橋の写真にしました。両側に門柱のように立つのは右がIBMビル、左側は手前の方が乾（イヌイ）マンション、橋の向側の塔のようなビルが乾商業ビルです。築地地区は地区内の紹介記事、月島地区は6月の見学旅行記となりました。両地区共、支部員数が十五社前後と少ないため、これからの増強が課題です。今号は支部事業として重要な永年勤続従業員表彰式と支部、関連業界の協賛で京青会10周年記念事業が無事終了致しましたので、この二つが主となりました。尚、"コラム"欄は、築地地区の㈱日刊食料新聞の近藤正弥社長の筆によるものです。（岩本）